

ジャンルの春秋

ザ・カンナシ 東京編 NO.19

東京でもカンナシ出してしまったのよ!

めっほのうけんかが強くて、人が人とは当然持たせられている五感-感覚がない! だからだからカンナシと呼ぶのネ。いたい!という感覚がないからけんか、強いのネ。カンナシに共通する形容詞=心傷い、かわい、天然?、強い、こわい、あぶな...

そう言えば、今までにボクが見たけんかの中で、10人づかみ一番きついと思ったけんかは、海彦のけんかだったなあ! 六本木のディスコで、ある若者がパーティーをやっていて、その中の1人と海彦がけんかになったの。ただでさえハンサムな海彦はどいあ、もうからこぶかった。

こちらはボクともう一人読書が大好きなおちゃん、もちん超まじめな文学青年。おちゃんのお友達が4人、さわかき海彦は、「おまえたちは関係ないケンネ、せつ、かかめるな」という外に出で出たっけ。そうしたら何と相手は1人じゃなかった。20人ぐらゝ一系者に出で出た。海彦1人で20人づかみで出で出た。

あいつはボクもついでだった。もちん止めようと思っ。「ホー!! おまえら1人じゃあけんかできんのかあこらあ!」「ででこんかいオー!! だれや! だれが大将かあ?」外でネー! 外の駐車場で、店の従業員の人数もニコ見物のほらもんなあ! 「オィ! 海彦せよ、君達もよく考え、けんかに来たんはな...」20人は無言! 「せからしかあー!! だまるとけ、ぬせーあ!」海彦はきれていた。

でできたでできた、7色どりの、180cm以上あるなあ。一言という戦士。まじにマッチョみたいな奴! 「おまえ、何かたかた言ったんだこらあ! とこの田舎者が殺してやるか? こらあ!」彼-戦士かどう言ながら、三巻海彦に近づいてきた。その時のお兄-ボクらは人は20人から囲まれていて、どいあもうクライマックス状態。ドキドキしながら... 「海彦! やめろ...」そう思った瞬間、やはりこわい!! カンナシがウハウハと笑っている。フッフ... おまえが俺をえじきになるのかあ! こらあ脂がのこるまじやなあ! コルホルン男バリョウリシマス!! フッフ!!



貝事に決まった戦士が大の字になったおれたの。一発で! とて海彦は言う必要のな...ことを言った。「ハイ! いっちょあつー!」次はどなたか? おつきは、カルビですかあ? ウハウハ、ハーツ!! ヤバイ!! ホントにまじい!! そう思った瞬間、ボク達二人は、20人からボコボコにされた!!!! 気がついたら床にたかまわっているボクを警察の人がおこして、さう、すこに警察署、となりで取調へをうけて、海彦はキヤ-ギヤ-言ってる。ボクの言葉をきくと、まじんと話したの。けんかしてけんかしておひらまになつたと思っ、そうしたら一方的にボコボコにされた。最初から最後まで正直にね! そうしたらおまわりさん、信じてくれなかった。おまわりさん、目を見あつて笑つて首をかしげる! 「おまえらの他に仲間かいたろう!」えー? おちゃんとおちゃんの彼女? といなあ、言葉明するけど、「なんなんにな!! ウリっくな! 4、5人逃げたろう? おまえらの仲間が、なんですかあ? どうしてですか? い言じて下せ、ボクら2人です。おまわりさん、どうして信じてくれなかったから、のちのちおれはね、相手20人中15人くらいか、相当やられてる。やっぱりそうかあ、海彦1人で、15人料理にほたてであった。